

健康増進支援施設の整備 と なごや健康カレッジ

市民の自主的な健康づくりへの支援

名古屋市

名古屋市のあゆみ

明治22年(1889)10月1日

市制施行で、名古屋市は人口約15万7,000人、面積約13.34km²でスタート。

昭和12年(1937)

名古屋汎太平洋平和博覧会を開催。日中戦争がぼっ発。太平洋戦争により当時の市域の約4分の1を焼失。

昭和20年(1945)

戦後、いち早く復興都市計画事業に着手。100m道路の建設、平和公園への墓地移転などの大事業を行い、今日の基盤が確立。

昭和34年(1959)

伊勢湾台風の襲来を受け、死者1,800人余、被災世帯13万人に及ぶ被害を受けた。この大災害は、その後の街づくり、『無災害都市』への示唆を与えた。

現在

市域326.45km²、人口約220万人の規模となった。
(H18.4.1：2,212,029人)

写真：名古屋市役所本庁舎



市のマーク・木・花

市のマーク(き章)



尾張徳川家で合印として使用されていた「丸に八の字」印といわれてる。

以来このマークは、名古屋市が将来に向かって限りなく発展する象徴として、市旗を始め市バス、地下鉄の車両などにも図案化して使用され、幅広く市民に親しまれている。



市の木 クスノキ



市の花 ユリ

姉妹・友好都市



ロサンゼルス市、メキシコ市、南京市、シドニー市およびトリノ市と姉妹・友好都市提携を結んでる。

これは、姉妹友好都市と文化・教育・スポーツ・経済など幅広い交流を進める中で、人種と国境を超えた友愛精神を育て、国際感覚豊かな市民性を育むことにより、明日の名古屋を創造するためにおこなわれている。

名古屋市の観光-1



名古屋城天守閣



金鯨(龍)

大坂城、熊本城と並び日本三名城の一つ。天守に取り付けられた金の鯨(金鯨・きんこ)は、城だけでなく名古屋の象徴にもなっている。昭和20年5月、B-29による焼夷弾により天守を含むほとんどを消失した。

名古屋市の観光-2



名古屋港水族館



小さな魚から大きなシャチまで約450種3万点余の海の生き物が飼育展示されている。世界最大級のメインプールをはじめ、北館と南館から成る世界屈指の巨大水族館。

名古屋国際会議場 愛称:白鳥センチュリープラザ



平成元年、市制100周年記念事業「世界デザイン博覧会」のテーマ館として使用され、翌2年に国際会議場としてオープン。3,000名収容のセンチュリーホールなどがある。延床面積 72,165㎡

クオリティライフ21城北 整備事業について

クオリティライフ21城北整備事業とは



1 クオリティライフ21城北

名古屋新世紀計画2010の「福祉・安全都市の実現」に向けた先導的プロジェクトのひとつとして位置付けられ、北区の志賀公園西隣の産業技術総合研究所中部センター移転跡地(約5.2%)を保健・医療・福祉の総合的エリアとして平成22年度完成を目指し整備するもの

2 整備予定地

- (1) 場所 北区平手町(志賀公園の西側)
- (2) 面積 51,644.73㎡

3 主な整備予定施設(仮称)

- (1) 西部医療センター中央病院
- (2) **健康増進支援施設**
- (3) 重症心身障害児者施設
- (4) 交流広場

クオリティライフ21城北全体構想 基本理念

病気や障害の有無にかかわらず、市民誰もが、ここで出会い、ふれあうことで、ともに理解し尊重しあう心を育み、その心を広げていくことをめざします。

「いきいき」として暮らす市民にあふれる21世紀の生活の質の高い都市

クオリティライフ21城北

21世紀の市民のクオリティライフを支えるまち

「市民誰もが」の

「ほっ」と安心を支えます

「いきいき」とした暮らしを支援します

ともに理解し尊重しあえる心を育みます

クオリティライフ21城北全体構想 まちづくりの方向

21世紀の市民のクオリティライフを支えるため、次の5つの視点でまちづくりを進めます。

21世紀にふさわしい医療サービスが適切に受けられるまち

西部医療センター中央病院

健康づくりを支援するまち

健康増進支援施設

障害者をはじめ、誰もが生きがいをもって過ごせるまち

重症心身障害児者施設

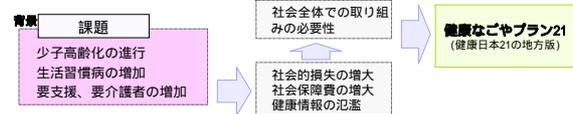
子どもを生み、育てやすい環境づくりをするまち

交流広場

市民との協働を支えるまち

クオリティライフ21城北全体構想 分野別構想

「健康増進支援施設(健康たのシウム、なごや健康カレッジ)」

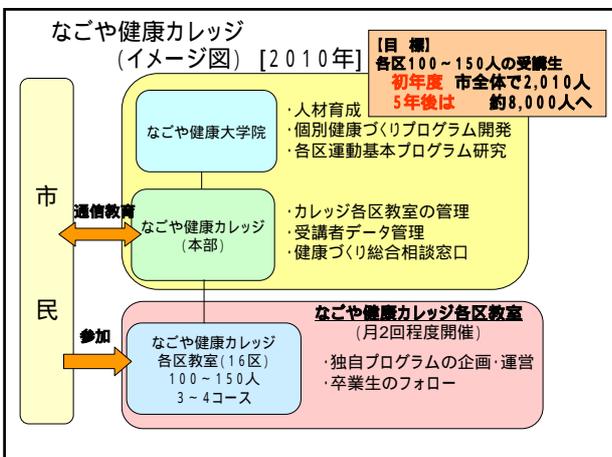
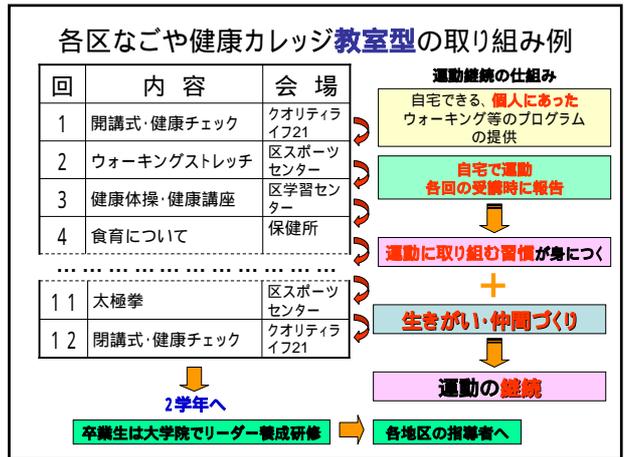
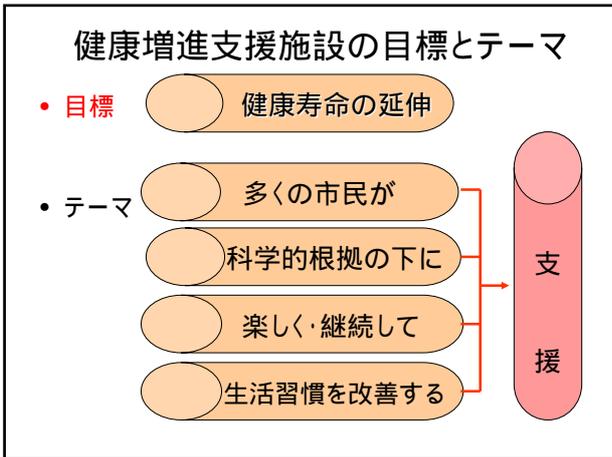
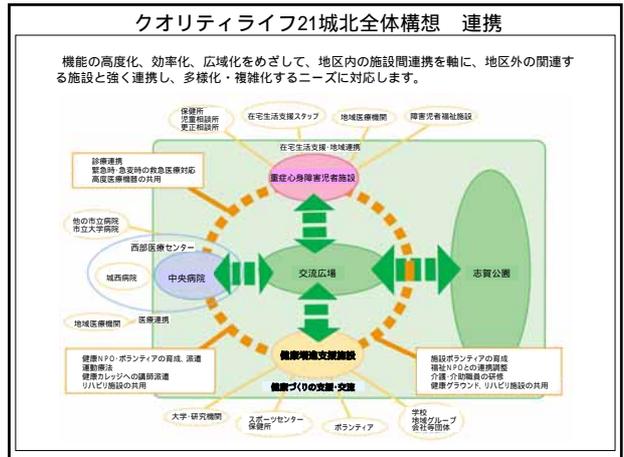
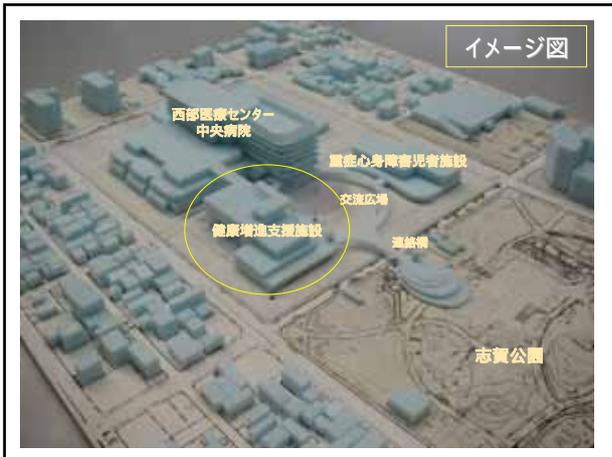


方針

- 来て 見て やろう 健康づくり
- 正しい知識の習得、動機づけ 楽しみながら健康づくり
- 実践、習慣化 一人ひとりにあった健康づくり
- 健康づくり活動・交流 市民、グループの交流を支援

主な機能と特色

情報提供機能	健康づくり相談、健康情報提供、エイズ情報センター	健康たのシウム
交流・支援機能	健康づくり市民・グループの交流・活動拠点、子育て支援、健康グラウンド(全天候型)	
健康学習機能	参加・体験型学習、健康講座、健康づくりスタッフ養成	健康カレッジ



なごや健康カレッジの手法別取り組み

	方法・ねらい	活動場所	活動内容(例)	対象
各区 なごや健康カレッジ	教室型 運動・栄養・休養の習慣化 生きがい・仲間づくり	スポーツセンター、生産学習センター、保健所等 + 自宅	月に1~2回教室で受講。健康づくりの学習・実技。日常の運動指導の受講 ・教室の合間は、自分でウォーキングやトレーニングを行い、教室受講時に成果提出。指導を受ける。	40歳以上
	地域密着型 運動の習慣化	コミセン・どんぐり広場・公園等 + 自宅	月に数回、地域の施設等で運動などの指導を受ける ・普段は、自分でウォーキングやトレーニングを行い、必要時に指導を受ける。	60歳以上
	通信教育型+教室型 運動・栄養・休養の習慣化	自宅 + スポーツセンター、生産学習センター、保健所等	インターネットや郵便で運動など指導を受ける ・普段は、自分でウォーキングやトレーニングを行い成果を提出 ・都合のつく時に面接により指導を受ける。	40~60歳 健診の要指導・要観察者
健康増進支援施設 (本部)	通信教育型 運動・栄養・休養の習慣化	自宅	個人にあった運動を、テキストを参考に自分でウォーキングやトレーニングを行い、インターネットや郵便で成果を提出。その後運動等の指導を受ける。	全年齢 膝痛、腰痛の緩和を希望する人
イベント型	親子の運動教室等 低年齢の頃から正しい生活習慣を身につける	スポーツセンター、生産学習センター、保健所等	生活習慣病の低年齢化を防止するための健康づくり等	幼児・青少年

なごや健康カレッジの連携大学

- ◆平成16年度
 - 試行の調査事業(2区)
 - 東区(名古屋大学)・天白区(東海学園大学)
- ◆平成17年度
 - 試行(3区)
 - 東区(名古屋大学)・瑞穂区(名古屋市立大学)・天白区(東海学園大学)
- ◆平成18年度
 - 試行(4区)
 - 東区(名古屋大学)・北区(中京大学)・瑞穂区(名古屋市立大学)・天白区(東海学園大学)
- ◆平成19年度以降に予定の連携大学
 - 愛知学院大学、名古屋学院大学

なごや健康カレッジの活動場所

- ◆本部(健康増進支援施設内)
 - プログラム作成、個人データ管理、指導者養成
- ◆区の活動
 - 既存の資源(施設)を活用
 - 各区の市スポーツセンター(16区全てに設置)
 - 生涯学習センター
 - 各区保健所(16区全てに設置)
 - 連携大学
 - 町内単位のコミュニティーセンター、公園、広場
 - 民間フィットネスクラブなど

東区「転ばん大幸教室」



名古屋大学(大幸医療センター)

天白区「自然の中で健康づくり教室」



相生山緑地

天白スポーツセンター 軽運動室

天白区「健康学ノススメ」



東海学園大学
「コンディショニング・ストレッチ」



天白スポーツセンター 軽運動室
「太極拳」